

# 平成 25 年度補正予算による継続課題に係る継続 評価書

研究機関 : (株)日立製作所

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発  
課題 I (c) プロトコル無依存リンク多重化技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 坂本 健一

■ 総合評価 : 適

(評価点 20 点 / 25 点中)

## (総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

## (コメント)

- 計画通りに進捗しており、今後も十分な成果が期待できるが、成果発表の積み増しを望む。
- ここまで方式の検討が中心であり、実動作の検証が始まったばかりであることから、実証システムの構築に当たっては、十分な動作確認を行うことが必要と思われる。
- 目標は達成見込みとのことであるが、検討会では具体的な説明が乏しかった。最終年度の実証・連携実験における成果を期待する。

## (1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果等が認められる。

### (コメント)

- 計画通りの成果が得られているが、国内のみならず、海外での研究発表を期待する。
- ほとんどの課題において方式検討が終了し、ハードウェア実装の初期段階に到達している。
- 目標は達成見込みとのことであるが、具体的な説明が乏しかった。

## (2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

予算計画書あるいは適切な理由に基づく支出変更理由に則り、有効、効率的かつ適正な執行が行われている。さらに、資金管理などの面で優れた取り組みが認められる。

### (コメント)

- 研究費は、ほぼ当初の予算計画通り執行されている。

## (3) 研究開発実施計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

### (総論)

実行可能であり有効かつ効率的な計画である。

### (コメント)

- 動作検証・性能検証、課題間連携を含めて、実行可能な計画になっている。
- これまでの検討結果を実装して実証実験を行う計画であり、十分実現可能な内容となっている。
- 実証・連携実験における更なる成果発表を期待する。

#### (4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。

(コメント)

- 目標達成に向けて有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も含めて妥当である。

#### (5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

適切な実施体制が組まれており、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- 課題間の連携を含めて、適切な実施体制になっている。
- 適切な実施体制が組まれており、計画通りの進捗が見込まれる。